

患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、診療後の診療情報等を使って行います。

このような研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とした生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。

なお、この臨床研究は関西医科大学附属病院研究倫理審査委員会ならびに兵庫県災害医療センターの審査を受け、研究方法の科学性、倫理性や患者さんの人権が守られていることが確認され、研究機関の長の許可を受けています。

この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

《研究課題名》

院外心停止症例に対するアドレナリン静脈投与又は骨髄投与の生存転帰に関する比較検討（観察研究）

《共同研究の代表機関名・研究代表者》

関西医科大学附属病院 救急医学科・准教授 梶野健太郎

《研究の目的》

本研究は、成人院外心停止症例（18歳以上）に対して早期に骨髄路を確保しアドレナリンを投与する戦略が、静脈路を確保しアドレナリンを投与する通常戦略と比較して、一か月後の神経学的予後良好（CPC \leq 2）の割合に差があるかを検討することである。

《研究期間》

研究機関の長の許可日～2030年3月31日

《研究の方法》

●対象となる患者さん

研究期間内に病院前または病院搬送中に当院のドクターカーで静脈路又は骨髄路が確保されアドレナリン投与された成人院外心停止例

●研究に用いる情報の種類

患者背景（患者性別、患者年齢、心肺停止目撃状況、心肺停止場所、心肺蘇生種別、市民による除細動の有無、初期心電図波形種別など）、

時間経過（覚知時刻、出場時刻、現場到着時刻、患者接触時刻、隊員による心肺蘇生開始時刻、初回除細動実施時刻など）、

ドクターカー医師による2次救命処置（投与路種別、投与路確保時刻、アドレナリン投与事項、高度な気道確保の有無等）、

病院到着後の治療・検査内容、生存転帰等

《外部への情報の提供》

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。

個人情報をも復元できる情報は、本院の研究責任者が保管・管理します。

《情報の取扱い》

診療情報は匿名化し、安全に管理されます。

《利益相反》

外部資金提供はなく、利益相反は適切に管理されています。

《本研究の問い合わせ先》

関西医科大学附属病院 救急医学科

電話：072-804-0101

《当センターの問い合わせ先》

兵庫県災害医療センター 救急部 部長 井上明彦

電話：078-241-3131